

核問題に憂慮する米国の市民ならびに米国の
平和団体から日本の市民への公開書簡

-日本に対する原爆投下から 74 周年という節目を迎えて-

私たちちは核問題に憂慮するアメリカの平和団体と市民の連携グループです。この地球上から核兵器が廃絶されることを訴えています。広島と長崎の原爆投下によって殺された方々へ、遺憾と謝罪の意を心からこめて慰靈の花束を捧げるために、ここ在ニューヨーク日本総領事館の前に集まりました。戦争犯罪であり人道に対する罪であった原爆投下に対し、私たちの政府は今まで正式に謝罪をしていませんが、70 年以上に渡って精神的及び身体的苦難を受忍せざるを得なかつた被爆者の方々へも、私たちは謹んで心よりお見舞いとお詫びを申し上げます。

1987 年には、射程 500 キロから 5500 キロの地上配備型ミサイルを禁じる中距離核戦力全廃条約に、レーガン大統領とゴルバチョフ書記長が調印しました。今年の 2 月、トランプ大統領はこの条約に基づく履行義務を停止することを正式に表明しました。アメリカとロシアが合計 9 割以上の核弾頭を所持していることを考慮すると、トランプ大統領によるこの方針は、米国間だけではなく、世界各地の国家間で不必要的緊張をほのめかし兼ねません。

70 年以上も続いた核抑止政策によって、世界はより危険になったというのが世界的に一致した意見です。私たちの政府に対し、武器の使用を制限する条約を維持することの重要性を求めながら、122 か国から絶賛され 2017 年に国連で採択された核兵器禁止条約に署名と批准をするよう、私たちは声を上げ続けることをここに約束致します。同時に、日本が同条約に署名、批准、及び推進にリーダーシップを発揮することで、米国の同盟国の中では米国の「核の傘」から脱却する最初の国になることを切望します。また、日本が平和憲法を守り、朝鮮半島における平和体制の構築を支持することを私たちは強く求めます。

軍事用、民間用にかかわらず、核技術の使用には膨大なリスクと予想外の莫大な結果が伴うものです。チェルノブイリ以来最悪の核災害である 2011 年の福島での原発事故の影響で、日本は多くの困難を抱え続けています。3 基の原子炉の炉心溶融と爆発を経験した福島第一原発事故により、16 万人もの市民が避難を余儀なくされました。8 年経過した今でも、5 万人以上の市民が避難を続けています。福島第一原発の作業員が廃炉作業と核廃棄物に苦戦している傍ら、敷地内に保管されている放射性汚染水の量が百万トンを超え、増加の一途をたどっています。被曝による健康への影響の一つとされる甲状腺がんの発症率が、子どもたちの間で増えています。

福島での現実は、安倍晋三首相が 2013 年に発表した「アンダーコントロール」から程遠いものです。ですが、安倍首相の偽った主張もあり、東京は 2020 年の夏のオリンピック招致を勝ち取りました。最近の報道によれば、事故を起こした原発からわずか 10

マイル程の所にある福島の「J ヴィレッジ」スポーツ施設が、五輪聖火リレーの出発点になります。聖火リレーは合計 25 の福島県の自治体で行われ、そのうち 9 カ所は原発から 30 マイル以内に位置しています。更に、東京から 150 マイル以上も離れ、「東京」オリンピックという名前に矛盾する土地の福島市で、ソフトボールの全試合と野球の 1 試合が行われる計画に対し、私たちは大きな不安を抱いています。また、2020 年の夏は日本に対する原爆投下から 75 周年という節目を迎えます。その年の 8 月 9 日にオリンピックの閉会式が予定されていますが、その日は 1945 年の残酷な原爆で長崎市が壊滅した日にあたります。

世界で核兵器や核技術の廃絶を実現することは政治ゲームではありません。それは私たちの子どもたちや将来この地球に生まれる次世代に対する、私たちの道徳上の義務なのです。それぞれの身分や出身や信条よりも重要なことなのです。第二次大戦以降、被爆者や彼らを支援する人たちが望んできた核の無い世界への道を、私たちは歩み続けなければなりません。

核に対する世界秩序が崩壊しつつあり、核兵器の使用リスクが増加している懸念すべき現状について、2019 年 1 月 24 日に行われた原子科学者会報による「2019 年終末時計」の発表会見での声明の一部を、私たちの結びの言葉とさせていただきます。

「核や気候変動、及び情報戦の脅威が交差している現状を、単に無視したり否定しているだけではなく、それらを十分に認識したり問題視していない状況は、持続不可能な事態である。世界の指導者や市民らが、最近のこの異常な現状を深刻に受け止めなければ、人類が未だかつて経験したことのない大惨事をこの世界は経験することになるだろう。」

ノーモア ヒロシマ
ノーモア ナガサキ
ノーモア フクシマ
ノーモア ウォー¹
ノーモア ヒバクシャ
絶対に二度と！

2019 年 8 月 5 日

[賛同団体・賛同者]

ベテランズ・フォー・ピース（ニューヨーク支部）
ベテランズ・フォー・ピース（シカゴ支部）
ベテランズ・フォー・ピース（ロスアンジェルス支部）
ベテランズ・フォー・ピース（ボストン支部）
ベテランズ・フォー・ピース（サクラメント支部）

ベテランズ・フォー・ピース（ゲインズヴィル支部）
ベテランズ・フォー・ピース（ブルームカウンティ支部）
ベテランズ・フォー・ピース（サンタクルーズ支部）
ベテランズ・フォー・ピース（ボルダー支部）
ベテランズ・フォー・ピース（ロチェスター支部）
ベテランズ・フォー・ピース（グリーンマウンテン支部）
ベテランズ・フォー・ピース（スポケーン支部）
ベテランズ・フォー・ピース（サンディエゴ支部）
ベテランズ・フォー・ピース（北ニュージャージー支部）
ベテランズ・フォー・ピース・ナショナル
VFP ゴールデンルール・プロジェクト
ビヨンド・ニュークリア
ブルックリン・フォー・ピース
フクシマ・フォールアウト・アウェアネス・ネットワーク
フクシマ・サポート・コミッティ・オブ・ロスアンゼルス
エンバイロンメンタリスト・アゲンスト・ウォー
グラニー・ピース・ブリゲード
平和ファウンデーション NY
核の無い世界のためのマンハッタン・プロジェクト
ニューヨーク・カトリック・ワーカーズ：メアリーハウス
ニューヨーク・カトリック・ワーカーズ：セントジョセフハウス
ニューヨーク・カトリック・ワーカーズ：ザ・ピーター・モーリン・ファーム
国連・持続可能開発 NGO 委員会 - NY
ニュークリア・エイジ・ピース・ファウンデーション
ニュークリア・インフォメーション・アンド・リソース・サービス
パックス・クリスティー・メトロ NY
ピース・アクション・マンハッタン
ピース・アクション・NY州
ピースボート US
PEAC インスティテュート
社会的責任を果たすための医師団 - ニューヨーク支部
ポピュラーレジスタンス
プログレッシブ・アジアン・ネットワーク・フォー・アクション
リボン・インターナショナル
サミュエル・ローレンス・ファウンデーション
ユース・アーツ・NY／ヒバクシャ・ストーリーズ

ノーム・チョムスキー（哲学者、言語学者、活動家）
ノーマ・フィールド（シカゴ大学名誉教授）
バリー・レイデンドーフ（元米海軍、元ベテランズ・フォー・ピース会長）
スザン・シュノール（ベテランズ・フォー・ピース ニューヨーク支部 プレジデント）
デイビッド・スワンソン（ワールド・ビヨンドウォー・USA）
ローズ・ウェルシュ（携帯兵器に対する国際行動 ニューヨーク支部）
ケヴィン・ジース、マーガレット・フラワーズ（ポピュラーレジスタンス）

[米国外からの賛同団体・賛同者]

9条地球憲章の会

ふえみん大阪

福島バッジプロジェクト

学習グループコスモス

中野の教育を考える草の根の会

阪神・市民放射能測定所

益子放射線測定所

安保法制の廃止を目指す中野アピール

沖縄環境正義プロジェクト

原発のない未来を！なかのアクション

未来につなげる・東海ネット・市民放射能測定センター

ベテランズ・フォー・ピース・ジャパン

ウィンド・フロム・クライストチャーチ（ニュージーランド）

ワールド・ピース・ベル ニュージーランド

ヘレン・カルディコット（医学博士）

伊藤 誠基（弁護士）

山本 晴美（歌語りシンガー）

森 一恵（日本反核法律家協会）

村上 由美（フィンランド、ヘルシンキ）

乗松 聰子（ピース・フィロソフィー・センター代表）

日高 京子（マレーシア クアラルンプール）

大口 彰子（ベテランズ・フォー・ピース、コード・ピンク・オーサカ）

ジョセフ・エサティエ（名古屋工業大学、助教授）

中村 奈保子（東京都）

大竹 秀子（スタンド・ウィズ・オキナワ NY）

人見 やよい（福島県）

武藤 類子（福島県）

一條 直子（福島県）

森園 かずえ（福島県）

谷田部 裕子（茨城県）小倉 康嗣（立教大学、准教授）

小山 貴弓（反原発出前のお店）

大沼 淳一（未来につなげる・東海ネット・市民放射能測定センター）

降旗 英史（那須希望の砦）

村上 直行（あがのラボ）

杉原 宏喜（おのみち測定依頼所）

富塚 とも子（さっぽろ市民放射能測定所 はかーる・さっぽろ）

川原 登喜の、津本 孝子、道永 麻由美（とやま市民放射能測定室「はかるっチャ」）

伊藤 厚志（富山県）

高濱 美春（東京都）

瀬田 美樹（東京都）

中山 瑞穂（東京都）

アーサー・ビナード（詩人）

ケイト・デューズ（カンタベリー大学教授、軍縮・安全保障センター共同所長）

ロバート・グリーン（退役英國海軍司令官、軍縮・安全保障センター クライストチャーチ、ニュージーランド）
アントニオ・弓削（ニュージーランド）
サーロー・節子（被爆者、カナダ在住）
竹内 道（ヒバクシャ・ストーリーズ）
加藤 真（高円寺Grain）
中川 茂（よろずピースBAND）
あづ まゆか（リブ・ピース・ジャパン）
小橋 かおる（花と爆弾—もう、戦争の暴力はやめようよ）
ロイ・シンクレア、ジーン・ベル（ワールド・ピース・ベル ニュージーランド）
久保 博夫（ピースサイクル全国ネットワーク）
吉川 秀樹（ディレクター）
内田 貴也（コロンビア大学 博士課程 海洋物理学専攻）
青木 富貴子（ジャーナリスト・作家）目良 誠二郎（9条地球憲章の会 事務局長）
堀尾 輝久（9条地球憲章の会代表 東京大学教育学部名誉教授）
井筒 高雄、形川 健一、武井 由起子（ベテランズ・フォー・ピース・ジャパン 共同代表）
中村 正人、鈴木 直子、中溝 ゆき（ベテランズ・フォー・ピース・ジャパン）
大橋 美紀（東京都）
松井 奈穂（東京都）
水越 淑子（東京都）
葦澤 進（東京都）
斎藤 ゆかり（東京都）
江田 徹（平和・民主・革新の日本をめざす中野の会）
川口 和正（ライター）
江原 永昭（元中野区議会議員）
山本 高明（東京土建一般労働組合書紀局員）
水谷 陽子（代々木総合法律事務所 弁護士）
八坂 玄功（しいの木法律事務所 弁護士）
日向 篤（東京管理職ユニオン 脱原発支部）
谷川 佳子（国際平和教育コーディネーター）

[連絡先] ベテランズ・フォー・ピース 第34支部 (NYC) P.O. Box 8173, New York, NY 10116-8173, USA

訳：井上まり（核の無い世界のためのマンハッタンプロジェクト）
核の無い世界のためのマンハッタンプロジェクトは、核問題に憂慮する市民や芸術家、活動家や弁護士によって2012年3月にニューヨーク市マンハッタン区で結成され、核兵器廃絶と脱原発に向けて意識を高めるための社会的な働きかけや、芸術や教育などの平和的な活動に携わっている。